

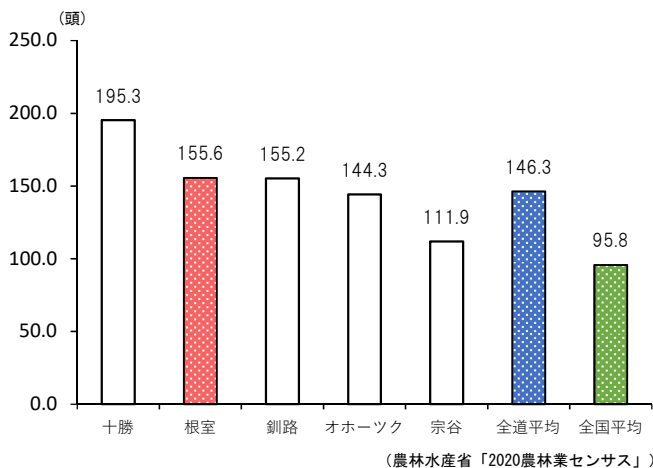
● 農 業

農業の概要

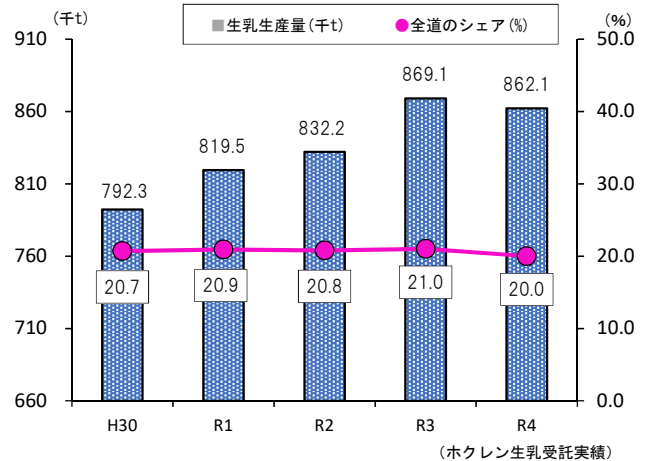
管内の農業は、厳しい気象条件を克服しながら、恵まれた土地資源を背景として1経営体当たり耕地面積は全道平均の約3倍の約84ha、1経営体当たり飼養頭数は約156頭に及ぶ大規模な草地型酪農が展開され、生乳生産量で全国の約1割、全道の約2割に相当する約86万トンとなっています。

区分	単位	管内 (A)	全 道 (B)	(A) / (B)	資料
農業経営体数	経営体	1,362	34,913	3.9%	2020農林業センサス
耕地面積	ha	110,140	1,143,000	9.6%	農林水産統計(R2)
1経営体当たり経営耕地面積	ha	83.7	30.2	2.8倍	2020農林業センサス
乳用牛飼養頭数	頭	176,750	810,699	21.8%	2020農林業センサス
1経営体当たり乳用牛飼養頭数	頭	155.6	146.3	1.1倍	2020農林業センサス
生乳生産量	トン	862,126	4,309,275	20.0%	ホクレン生乳受託実績(R4(2022年度))

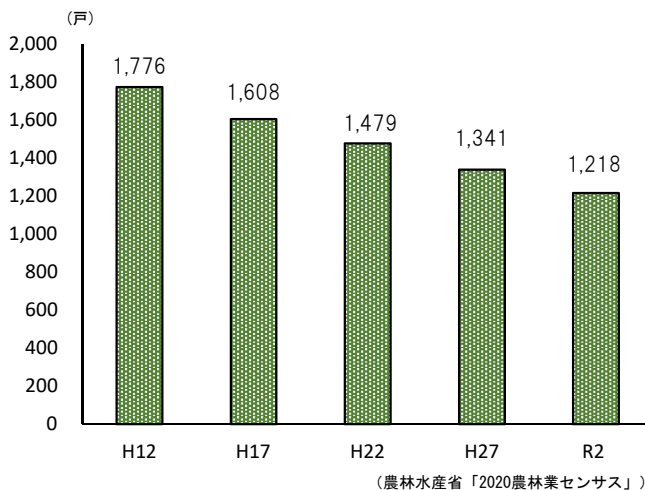
地域別 1 経営体当たりの乳用牛飼養頭数



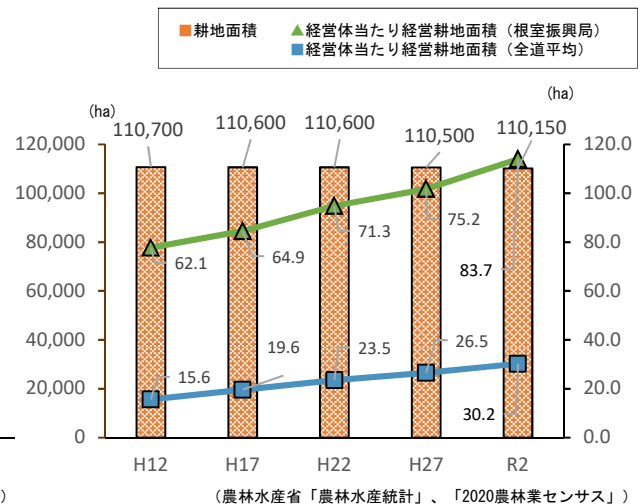
生乳生産量の推移



販売農家数の推移



経営耕地面積の推移



一方で、農業者の高齢化や後継者の不在などにより農家戸数の減少が進行するとともに、現場の労働力不足も深刻化しており、草地や乳牛など酪農の生産基盤の維持や、農村人口の減少による農村コミュニティの存続が課題となっています。また、コロナから続く生乳の需給緩和、世界情勢による肥料・飼料価格の高騰等が、今後の営農継続にあたっての不安要素となっており、外部の環境変化に左右されない酪農経営の確立が求められています。

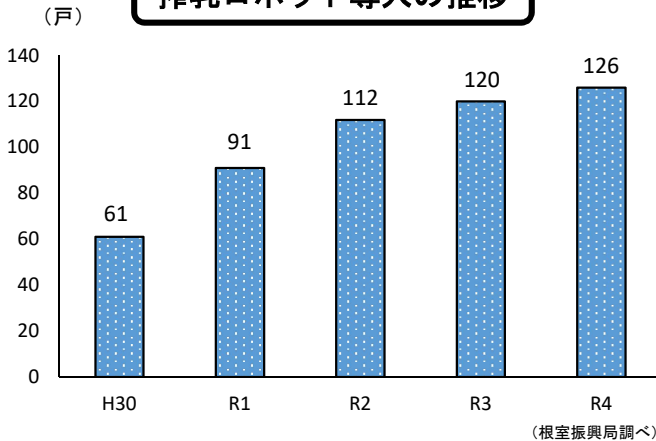
このため、搾乳ロボットやえさ寄せロボットをはじめとする省力化機械の導入や、TMRセンターやコントラクター、酪農ヘルパーなど営農支援組織の活用により労働負担の軽減が図られています。また、根釧地域独自の就農フェアの開催や、高校生を対象とした出前事業の実施などにより、新たな担い手確保や、農村地域において幅広い人材が活躍できる環境づくりを推進しています。

さらに、良質な自給飼料基盤を確保していくため、従来夏期に集中していた草地整備を春・秋に分散する施工時期の平準化に取り組み、計画的な整備を推進しています。また、安定した生乳生産体制を支えていくため、老朽化した農道や営農用水の保全・整備を推進しています。

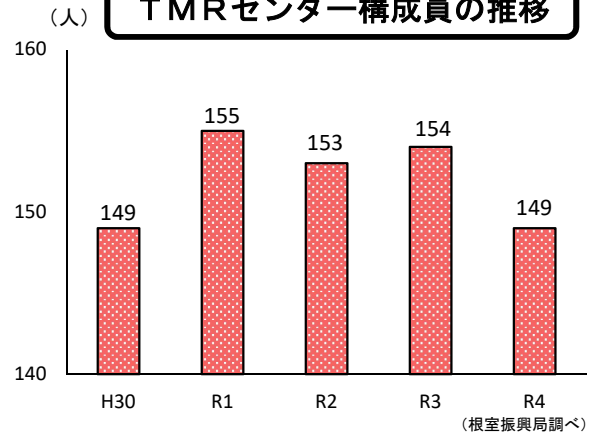


●老朽化した農道の保全・整備

搾乳ロボット導入の推移

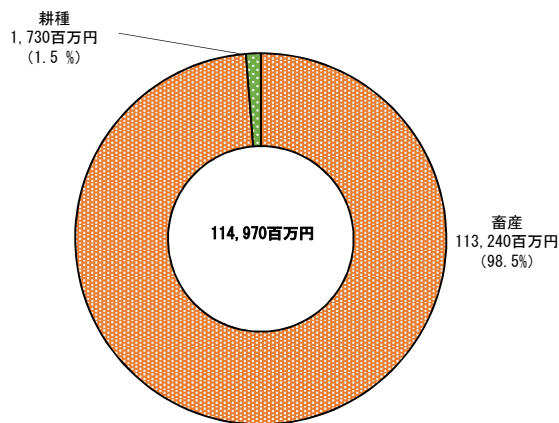


TMRセンター構成員の推移



※TMR (Total Mixed Ration) センターとは、サイレージ・とうもろこし等の飼料、ミネラル等を混ぜ合わせた完全飼料の生産、調製、配送まで行う施設。構成員個々の飼料の生産、調製が不要となることから、省力化が図られる。

農業産出額



道営事業費の内訳

